

まつしげこうもん
松重閘門

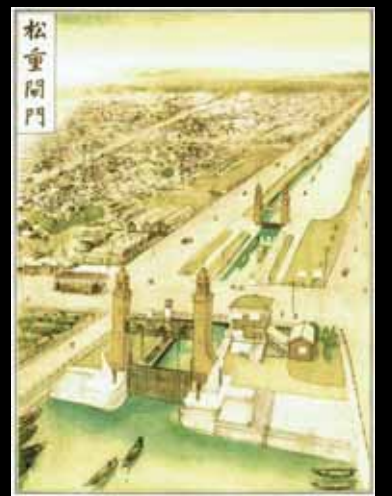
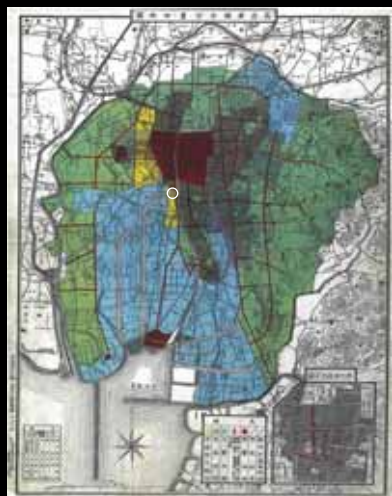
中部地方の
選奨土木遺産

所在地：愛知県名古屋市中川区 竣工年：昭和5年

管理者：名古屋市長政土木局

認定理由：松重閘門は堀川と中川運河を連絡する通船路にあり、近代名古屋の産業発展過程を示す重要なランドマークとなっている。

平成22年度登録



「名古屋都市計画地域図」「名古屋都市計画街路及運河網図」（大正13）南部に巨大な工業地域（青）が描かれる。図中の○印が松重閘門の位置。

竣工後に描かれた中川運河の絵地図（上）沿川は分譲中。松重閘門は中川運河の起点にあたる。松重閘門「門扉作業塔」立面図（下左）、戦前の松重閘門閘室の風景（下右）

松重閘門を中心とした風景鳥瞰図

近代の名古屋市にとって運河は交通運輸上、欠くことのできない重要施設だった。1920（大正9）年に都市計画法が施行されると、名古屋市はこれに従い都市計画を進めるが、1924（大正13）年には道路網計画と合わせて、中川・荒子川・山崎川・大江川を幹線とする運河網計画の認可をうける。これは特に名古屋築港を軸にした名古屋市南部の工業地域計画を促進するためであった。この網を形成するにあたり、水位の異なる二つの幹線をつなぐ時には、その落差を堰により解消しなければならないが、運河を利用する舟運がこの落差を越えるために、閘門（こうもん）という施設が必要だった。松重閘門は17世紀から使われてきた堀川運河と新しく開鑿した中川運河をつなぐ位置に建設された。鉄の扉を吊り上げて開閉するストーニー式ゲートで、これを制御する2対の塔からなる。塔のデザインは、名古屋市土木部建築課によるものである。

